

算数問題のコード作成

楽しく学ぶ算数・数学プロジェクト コード作成グループ報告

松井 徹^{*1}, 石神 淳司^{*2}, 横山 政司^{*3}, 渡辺 勝敏^{*4}

家庭や学校で活用できる算数ドリルの問題作成にあたって、現行の学習指導要領に従って目標分析を行い、目標分析から問題コードを作成した。問題コード作成にあたって留意したことをまとめた。

<キーワード> 小学校, 算数, ドリル教材, 問題コード, 目標分析, 個別学習

1 問題コード作成について

練習問題及び評価問題の作成にあたり、問題は学習指導要領の目標をふまえたものにする必要がある。また、問題はデータベースに保存し、検索するためコード化する必要がある。そこで、次の手順で目標分析を行い、問題コードを作成した。

現行の学習指導要領の目標を、学習項目コードの作成基準（小学校 算数）に従って、教科別、

領域別、学年別に分類することにして、学習内容の目標として、内容項目1(大分類)と、その下位の目標である内容項目2(内容)に分類した(図1)。さらに下位目標として学習項目(細目)を定めてコード化した(図2)。

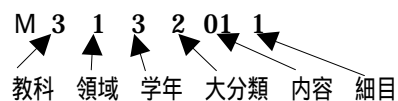


図2 コード化

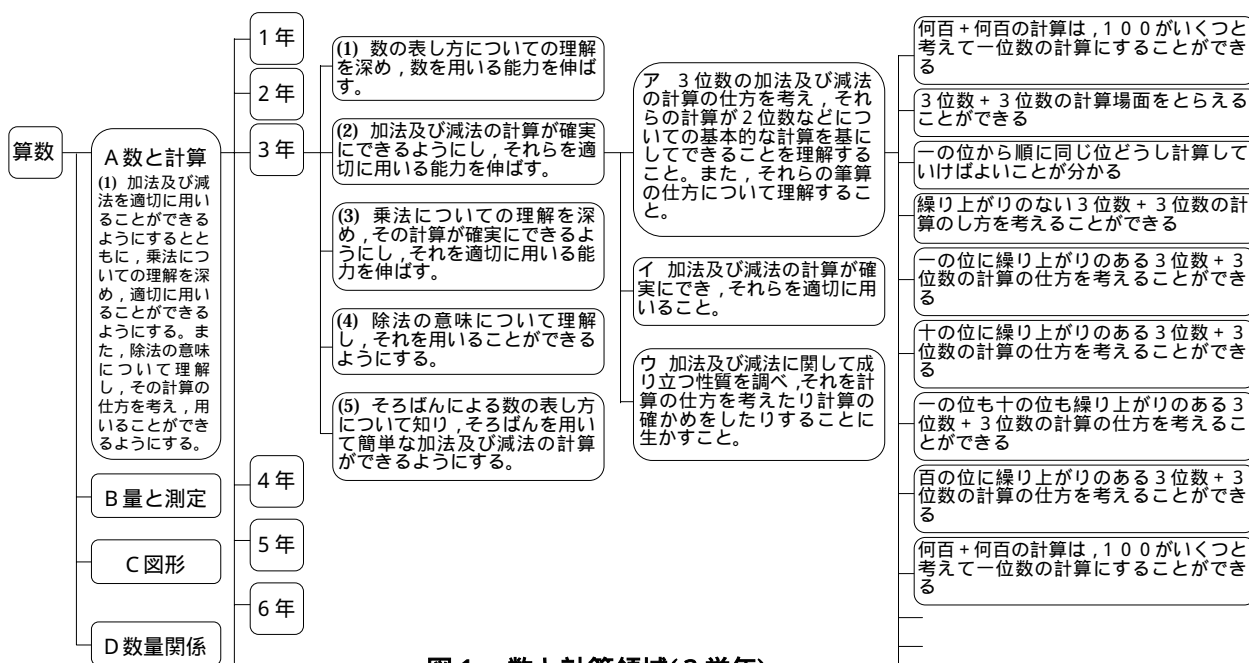


図1 数と計算領域(3学年)

^{*1} MATSUI Toru : 岐阜県地方自治大学校 (〒500-8384 岐阜市藪田南 5-14-53)

^{*2} ISHIGAMI Junji : 岐阜市立且格小学校 (〒501-6133 岐阜市日置江 1859-1)

^{*3} YOKOYAMA Seiji : 羽島市立堀津小学校 (〒501-6330 羽島市堀津町 617)

^{*4} WATANABE Katsutosi : 岐阜大学教育学部附属小学校 (〒500-8482 岐阜市加納大手町 74)